

日付:2015年2月15日／聖書:ルカによる福音書12:13～21

主題:「神の前に豊かに生きる(天に宝)」

イエスは「愚かな金持ち」の譬をする。イエスの指摘は、自分の事だけに終始してしまうこと、この世の見えている世界が全てだと考えてしまうこと、そしてこの世界と神の国との関係について全く考えようとしていないことへの指摘である。金持ちには、豊作で収まりきれない残った物を分け合う、貧しいものに分け与えるという考えはまったくない。誰が、太陽を昇らせ、雨を降らせ、作物を成長させているのか。目に見えないものに目を注ぐことは、聖書が教えている事である。

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。

見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。(Ⅱコリント4:18)

インドのカルカッタで貧しい人々のために働いたマザーテレサの話がある。ある方からもらった小さな一袋のお米があったが、彼女はそれを半分に分けて、イスラム教徒の貧しいご婦人の方にあげたそうである。するとそのお米をもらったご婦人は、そのお米を半分に分けてよそに持って行ったそうだ。マザーテレサはこのご婦人に、あの半分のお米をどこに持って行ったの?と尋ねると、このご婦人は、私よりも貧しいヒンズー教徒の婦人にあげてきた。と応えたとい。マザーテレサはそのことを聞いて、「ここに神の国があります」と話した。そういう事の延長線上に、神の国があり、天に宝を積むことになり、神の前に豊かに生きることになるのであろうと思う。お互いに違いはあっても、宗教を越え、民族を越え、国を越えて分かち合う。そこに、まことの平和があることを覚えてい。

辺野古に大きな倉を造ろうとしている。強引に最新兵器を装備する倉(新基地)を造ろうとしている。その人たちは、「こう自分に言ってやるのだ(ろう)。『さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えをするぞ。それが完成したら、ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しもう』と』(12:19)。隣国を敵対視し、「自分(自国)のために富(武力)を積んでも、神の前に豊かにならない者は」・・・「愚かな者よ」と呼ばれてしまうのだ。そんな愚かな現状をしっかりと見張りつつ、「神の前に豊かに生きる」歩みを踏み出して行きたい。この世界は、神の国の延長線上にあることを覚え、天(てィん)に宝を積むことの意義を深めて行きたい。(神谷)

「天に宝」

てィん たから ち
1 天に宝 積だるわんや
かんし 喜びやる
エスに頼む うぬ喜び
如何し 尽さりゆが

すくいぬし てィがら
2 救主ぬ 手柄にゆてい
嬉しやる身とウなたん
心配多さる 此世やしが
み国ぬ心地やてい

しゅ うた ゆるく
3 主やわが歌 わが喜び
ただ一ちぬ救い
はまてい告ぎら 世間人に
くぬ善かる音信